

氏 名：浅井 宏美  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第 124 号  
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 森 明子（聖路加国際大学教授）  
副査 及川 郁子（聖路加国際大学教授）  
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）  
副査 加部 一彦（愛育病院）

論文題目：NICUにおける家族中心のケア(Family-Centered Care)を促進する個人的・組織的要因

#### 博士論文審査結果

本研究は、FCC の普及促進のため、FCC の実践に影響すると予測される個人的・組織的要因に関する仮説を検証し、FCC 実践を予測するモデルを構築することを目的とした量的横断的記述研究である。43 総合・地域周産期母子医療センターNICUの看護管理者 43 名とスタッフ 1700 名を対象とし、それぞれ 40 名(施設)と 764 名から有効回答を得た。

審査での主な指摘事項は、①FCC 実践に影響する組織的要因に位置付けるべき変数の不足、②研究の概念図および仮説の不備・不足、③FCC 実践を間接的に促進する組織的要因の分析が行われていないこと、また、そのため、④考察において、FCC 実践を促進する両親の 24 時間面会方針を実現するためにはどうしたらよいかという現場を変えるためのインパクトのあるエビデンスの検討に至っていないことの 4 点であった。

①については、FCC を促進する組織風土（集団の認識）を組織的要因に加えてマルチレベル分析を再度行った結果、両親の 24 時間面会方針に加えて、FCC を促進する組織風土（集団の認識）も FCC 実践を直接高めていることがわかった。②については、概念図を見直し、実際の分析内容との整合性も確かめ、不足している仮説を加筆した。③については、FCC 実践に対して有意な影響を与えていた 2 つの組織的要因（両親の 24 時間面会方針；組織風土（集団の認識））に対して、他の組織的要因が影響を与えているかどうか、40 施設のスタッフ平均値を各施設データとして用い、組織的要因間での回帰分析を行った。その結果、看護管理者のスタッフに対する教育・管理が両親の 24 時間面会方針と、組織風土（集団の認識）に、病棟のケア方針が組織風土（集団の認識）に、影響を与えていることがわかった。すなわち④、FCC 理念を病棟目標に位置付け、スタッフ間やスタッフと医師の間をうまく進める看護管理者の下では両親の 24 時間面会方針が実現する、日常的に家族とスタッフ間あるいは多職種間で話をし情報交換する方針をもつ病棟では FCC を促進する組織風土（集団の認識）が醸成される、と推察された。管理のあり方が FCC 実践を促進することがわかり、考察に看護上の提言を加筆した。マルチレベル媒介分析が今後の課題として残されたものの、指摘事項の修正が確認され、NICUにおける FCC 実践促進のための具体的な糸口を示すエビデンスとして貢献できる論文であると認められた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。